

rongorongongo

茨城キリスト教大学 文化交流学科

茨城キリスト教大学文学部文化交流学科 〒319-1295 茨城県日立市大みか町6-1-1 TEL 0294-52-3215 FAX 0294-52-3493

本学で日韓シンポジウム開催!

テーマ 日本と韓国における 外来文化の受容と展開

染谷智幸

ビミョーな日韓関係の中で

もしれないというミーハーな
方、是非、ご参加ください。

日程 二〇〇六年11月18日
(土) 19日(日) (予定です)
変更する場合があります
場所 茨城キリスト教大学
参加大学: 明知大学校(韓国)、
関東大学校(韓国)、桜
美林大学(日本)、茨城キリ
スト教大学(日本)
テーマ 日本と韓国における
外来文化の受容と展開



タイ南部のツナミ被災地で復興支援活動に従事する福田佳代子(右)は05年の卒業生

みなさんもご存知のように、現在の日本と韓国の関係は、様々な懸案を抱えています。たとえば、竹島・独島の領土問題、そして教科書問題、また小泉首相の靖国神社参拝などをめぐる歴史認識問題などです。しかし、そうした外交上の摩擦がある一方、日本における韓流ブームは、相変わらず、おば様たちの心を驚つかみにしたままです。韓国における映像・音楽など、日本文化の開放もさらに進んでいます。

これからのあるべき姿を

今回、本学で開かれるシンポジウムは、そうした多面的な日韓関係を論じて、これからの日韓関係はどうあるべきかを考えようというものです。本学に韓国から多くの先生方がやってこられて、本学の先生方と熱い議論を交わします。

韓国文化や日韓関係に興味のある方、国際的な学術会議というものを一度見てみたいという方、韓国の先生方の中に、ペ・ヨンジュン氏のようなカッコいい先生がいるか

森 謙一

人生の先輩に学ぶ

キャリアデザインII

05年度から始まったこの新しい科目は、学生諸君のキャリア形成に役立つように、先輩諸氏にこれまでどのような人生を歩んできたかを語ってもらうものだ。これまでに、日立製作所に勤務され現在J-NETを立ち上げた掛札優さん・同様に日立製作所を退職されNPO法人を立ち上げた内田芳勲さん・日立竹人形を制作されている柴田重光さん・内山味噌の内山庄栄さん・大貫鉄鋼の大貫啓人さん、そして水戸出身で現在読売新聞

いろいろな生き方がある

話はとても面白い。それぞれの人生が語られ、講師陣それぞれの生きざまが見えてくる。平山さんには急遽特別にお話いただいたという感じが、その他の人々は日立の地元で生活し、地元で活躍されてきた人々である。身近な人々ではあっても、色々な人々があり、色々な生き方があることを学生達に示すことができた。それだけでも、この講義は成功だったと思う。

学生の素直な反応

学生達がこの講義を聴く時、通常の講義のように構えて聞くことはない。レポート

を書かなければならないので

メモをとってはいるが、比較的ゆったりとした気持ちで聞いている。だから講師の方々の話素直に反応し、驚きや共感がすぐに表情にあらわれてくる。もしかすると自分もあのようにがんばれると思うのかも知れない。人生の先輩も現在の自分と同じような悩みをかかえていたのだと納得するのかもしれない。

講師の方々にも、自分を表現することを楽しんでもらっているように、私には思える。自分を伝えることができる喜びは誰にでもある。自分の話が学生達にどのように受け入れられたのか、少し心配しながらも、自分を表現したことに少し満足していただけたのではないかと思う。

私たち教員の話より新鮮であり、お互いが「喜び」を感じている。これ自体も「文化交流」の一つなのだろう。世代間の交流、地域との交流、コミュニケーションのあり様は多様な形で存在している。そんなことを考えながら、私は講師陣のお話を聞いていた。

ICANNの活動

アジアな自覚 がありますか?

本学では、アジアンバザール、アジアンボランティア・サポート基金、カンボジアでの日本語教育ボランティアといったアジアからの活動が活発に行われています。実は、文化交流学科が中心に関わっています。これらの活動をひっくるめてICANNと名づけています。「茨城クリスチャン・アジアン・ネーバーフッド・ネットワーク」の頭文字です。もともとこちらはアジア人ですが、あまりアジア人としての自覚がないのではないかと?アジア人としての自分たちの姿をしっかりと見つめることから本当の意味での世界的視野も開けてくるのではないかと、そんな考えからいろいろな取り組みを行っています。

そのひとつのきっかけとなったのは、05年5月にスマトラ沖地震による大津波の被災地の復興支援に出かけるという卒業生を資金的に支えようという募金キャンペーンでした。学内外からの協力のおかげで現在第二期にはいっています。

タイ南部のツナミ被災地の復興支援活動に当たっている卒業生福田佳代子さんに二万円、また、05年9月カンボジアでの日本語教育ボランティア活動に参加した六名に合計六万円を補助しました。

お金というものはそれ自体にあまり意味があるわけではなく、人と人の関係をどう仲立ちするかが問題だ、などと思いつながら、これらの活動に取り組んでいます。

学園祭のアジアンバザールや日本語教育ボランティアについては別掲記事(五、六ページ)もご覧ください。

あまり厳密な所属を定めずに、ふわふわした組織で動いています。関心ある方はご連絡ください。(藤田) icann@hotmail.co.jp または fujita@s-icc.ac.jp

ロンゴロンゴとは南太平洋ポリネシアのイースター島で昔作られていた「物を言う板」です。この板には文字のようなものが書いてありましたが、この文字はまだ解読されていません。これは島の人々に歴史や情報を伝える板でした。

こ・ん・な・授・業 あ・ん・な・授・業

齋藤・染谷
やりがいのある
文化ネットワーク演習

この学生は文化ネットワークは必修科目になっています。担当は齋藤先生か染谷先生です。私は一年間、齋藤先生に鍛えられました。この講義はパソコンの基礎からやりやす。前期はワードを使いこなせるようになり、後期はホームページを作ります。また、毎回授業の最初にタイピングテストをやり、ノルマを達成できないと、できるまで居残りという厳しいルールがありますが、いろんな話が聞けて楽しいです。やりがいのある講義です。



そまや・きょうじゆ

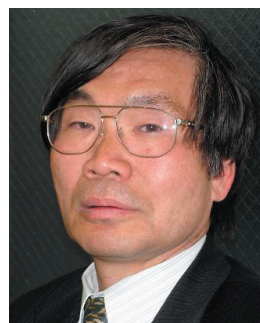
森

身近な問題に目を

社会学

◆現代の日本社会が抱える問題を(近代を含めて)学ぶ科目です。テーマが重く難しい授業と思われるがちですが、私たちが日々歩んでいる社会について森先生独自の解釈と内容で講義は進みます。理解しやすく面白いと思います。

これからの社会とどう向き合っていくのか、この講義を受講して私たちの身近なところにある問題にぜひ目を向けてみてください。



原口

とても楽しい

児童文化I

◆私が紹介したい授業は、原口先生の「児童文化I」です。グリム童話やアンデルセン、絵本などについて学びます。私が楽しみにしていたのは、原口先生のお話でした。先生は「眠り姫」、「赤ずきん」、「なら梨とり」など他にも様々な物語を話してくれました。お話しの前には、物語に集中できるように手遊びをすることもありました。普段は学ぶことができないような知識を得ることができるとても楽しい授業なのでお勧めします。

藤田

筑波センターでの研修付

国際協力

国際協力の授業の一部になっていくJICA(国際協力機構)筑波国際センターでの二泊三日の合宿研修はとても良い経験を得ることが出来ます。

講義だけでは国際協力、JICAについては詳しくは分からないのではないかと思います。国際協力について興味がある人

も、あまりない人も是非とも合宿に参加してみてもいいと思います。三年生にとっては就活の役に立つことも得られますし、四年生にとっては最後の卒業前の旅行のようにもなりますのでお勧めです!

2006年の時の合宿の内容を簡単に説明すると、まずグループ分けをしまして五、六人のグループになります。このグループは三日間の行動をするチームになります。今まで話したことがない人達とも仲良くなる良いきっかけになります。この機会に友達も増えましょう!

この合宿ではディベートを三日目に行いましたので、図書館で資料を集めて夜の自由時間にグループで集まり、ディベートの準備をしました。このディベートはかなり本格的に行いますので、経験者のアドバイスとしては合宿前にディベートの内容を聞いておく事前に調べておいたほうが良いと思います。夜の自由時間がディベートの話し合いなどで無くなってしまう。とても大変なので予習をお勧めします。

合宿の中で「緑の革命」に関するビデオ上映がありました。今年



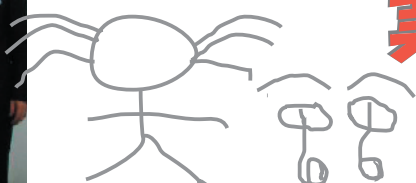
もあるのかないのかは分かりませんが、これはとても衝撃を受けました。国際協力とは何なのかを改めて考えさせられます。他にも沢山のグループ活動で、国際協力について考えることができます。

そして海外から筑波センターに来ていた研修生達との交流会があります。スポーツ大会と立食パーティーで、研修生達と親交を深めることができます。この交流会はセンターの人達が進行するのではなく、学生達がやります。もちろん英語で話していきますので英語の大切さ、難しさ、楽しさなどを実感することができます。

とても大変ですがやり遂げた達成感を得られます。交流会や研修生と上手くやって行くアドバイスとしては、どんな自分達から積極的にコミュニケーションをとっていくと良いと思います。仲良くなると一緒に体育館で遊んだりすることもできます。

そしてディベートでは他のグループと本気で討論します。このディベートで準備の成果を存分に発揮してみてください。このディベートの経験は就職してから役に立つのでとても良い経験になります。

この合宿を終えた時には必ず何かを得ているはず。それは自分の人生の一生の宝物になるはず



トンパ文字で「貧乏」「泣く」



です。決して楽な合宿ではありませんが、是非参加してみてください。

JICA筑波国際センターで、各国からの研修生との交流会ではタルマサンガコロンダをやったりして大いに盛り上がった。

日本語各論II (文字・表記)

染谷智幸

日本語教員用の検定試験に備えての授業ですが、いまやかなり脱線気味。数年前に始めた「世界各国の文字を知ろう!」という導入的な試みが授業の主流になりつつあります。

学生個人で今まで全く知らなかった文字を一つ選んで、調べて発表するのですが、世界にはこんなヘンテコな文字があったのかと驚くことばかりなんです。とくに中国雲南省のトンパ文字には学生の皆がハマります。

こんなことばかりやって日本語の勉強になるのかしらん心配かも知れませんが、こうして世界各国のことは知ることによって、逆に日本の文字のユニークさを知ることになります。たとえば日本語は漢字・かな・カタカナの三種混用ですが、他にありません。

日本語こそヘンテコだ!これに気付けばあなたはもう日本語教師の入り口に立っていると言つてよいのです、ホントですよ。

民俗学

森 謙二

私は民俗学の専門家ではないが、数年前からこの講義を担当している。前に、ある大学から民俗学史の集中講義を依頼されたこともあり、それほど難しく考えないでこの講義を担当することになったが、始めてみると何とも厄介であった。自分で

分の講義に納得できなかったところが、去年の後期からすんなりと講義に慣れていった。学生にとっておもしろい講義であったかどうかは別にして、馴染んできたのである。民俗学は、伝承されてきた文化をあつかう学問である。

日本文学II

佐々木冬流

毎年、江戸初期の百物語怪談集を片っぱしから拾い読んでいく。簡単にいえばなつかみは妖怪と幽霊の話である。受講者にはあまりかたいことは言わない。しかし、授業として読むのだから、せめて妖怪・幽霊の変遷を知ることによって、日本人の精神文

化の歴史ということに思いをはせてもらいたい。



私

の

今までの知識が崩れる

日本史

◆この授業は高校までの年号を覚えるだけの歴史の授業とは違って、歴史を考えるものです。レポートも「講義を聴いて考えたこと」について書くので、しっかりと授業を聞いて、気になったことはメモしておかないと書けません。レポートは量が質で勝負です。また、今までの日本史の知識が崩れます。ためになる話も聞けて、と

斎藤 きとき笑いがあります。面白かったですよ。

誰でも親しめる 言語学



藤田

一人でも読む自信

CISS英語リーディング

◆一年を通して、初めはほとんど読めなかったが最後のほうになつてくるとじよよに英語がわかるようになった。あと、先生が読んで本を選ぶのではなく自分たちで好きなものを選ぶというのがとてもよい。読んだ本の中で「スーパーバード」と「レインマン」が面白かった。

◆初めはちょっと不安だったけど、やってみると普通の授業より分かりやすかった。英語しか書いていないけど、本だからストーリーが分かれると楽しかった。英語に対するイメージもよくなったし、誰でもできると思った。英語

◆この科目は言葉とはなにか、を学ぶものです。私たちが普段何気なく使っている日本語ですが、韓国語や英語などと比較すると、日本語特有の表現を知ることが出来ます。猿田先生のおっしゃっている通りこの科目を受講したからといって外国語ができるようになるわけはありません。むしろ言葉の基礎的なスキルを磨くところだと思えます。この講義は日本語を中心に進んでいくので、誰でも親しめる科目だと思います。

奥が深いな？ ヨーロッパの文学

◆グリム童話はちいさいころにしか読まなかったのが、改めて読んでみて新しい発見があったり忘れていたお話を思い出したり、とても楽しかったです。

何気なく読んでいたお話なのに、国や書いた人によって少しずつ違っていたり、逆に規則性があつたりして、奥が深いなと思えました。

◆知っている(うる覚えの)話のさまざまなバリエーションやもとななる話をいろいろ知ることができた。子どもに聞かせられないような残酷な話、意外な結末を迎える話、ハッピーエンドを迎える話など…。読み手側としては好き

藤田

新鮮味があつた 比較教育論

◆日本の現在の教育だけを見て何か学ぶのではなく、さまざまな国や時代を通して比較することによって見えてくることがあるとわかりました。

◆この授業で、私は物事を多方面の立場、ないし視点から考えることの重要性を学ぶことができたと思えます。ひとつの考えに固執しがちですが、たつた一つ教室を見比べることによって、いかに視野の狭い範囲で物事をみていたのか再確認することができました。

◆教育はその国によって、文化風習など特徴が現れるので、他国の教育の風景を写真などで知ることができてとてもよかったです。特

嫌いはあるかもしれないけど、作者・編者・語り手側のさまざまな意図があるということも知った。もちろん、個人的には、(哀しさの中であつても)なるべくハッピーエンドの話が好ましいのであるが……。今後いろいろな昔話やそのバリエーションの話を読んでいきたい。半年間、多くの話を聴くことができて楽しかったです！

◆後期の授業を受けてきて、日本の昔話で間違つて覚えていた部分、今まで知らなかった物語について学ぶことができて楽しかったです。ヨーロッパなどの話でも、いろいろなバリエーションによって話の展開の仕方が異なるということに少し驚いた。特に、私は「赤ずきん」が好きなので、何種類もの話の流れがあるということを知ることができて、とても勉強になった。

に、アフリカやその他の途上国の教育風景はあまり見る機会がないので、とても新鮮味があつた。教育というのは、その国の特色などが鮮明に出ていると思う。経済の状況によっては、設備のよいところ、悪いところなどもあるだろうし、勉強をしたくてもできない子どもたちもいる。だから自分たちが住んでいる国はとても幸せな国だと思つた。

◆一人一人の学生の意見を聞きながら講義を進めていくので(ほぼ)全員参加できて良い授業だったと思います。ただ、午後の授業の上スクリーンの画像を見ながら講義を進めていくので、多少眠くなることも多かったです。世界の教育施設などの画像も見れて非常に興味をもてる授業でした。

授業

日本語・言語学

猿田知之

雪の結晶をみて、神秘的美しさに感動したおぼえがあるな

旅行業務資格取得講座

二葉進

「総合旅行業務取扱管理者」は国土交通省の認定する国家試験です。試験は毎年10月に実施され、試験科目は旅行業法・旅行業約款・国内旅行実務・海外旅行実務の4科目です。そのうち本年度は「国内旅行実務」と「海外旅行実務」を学習します。将来、旅行関係の仕事に就職を

地球市民論

堀口悟



から学ぶだけでなく、日本からも情報発信することが大切で、「地球市民論」の授業の中で、私は、日本語を伝える方法についてお話しします。日本語は日本人なら誰でも持っている日本文化ですから、伝える方法さえ分かれば、文化交流にとっても役立つはずですよ。

らぬうちに始まっている「です。

日本の歴史

斎藤聖二

実はコンピューター以外に日本史も教えています。受講者はこれまで習った日本史とちよつと違う歴史に出会つて驚くと思います。この講義を通じて何のために歴史を勉強するのか分かつてもらえたら嬉しい。2006年度のテーマは、「知



こ・ん・な・授・業 あ・ん・な・授・業

学生生活は授業が全てではありませんが、ま、一応、授業が大切な部分ではあります。どうせやるなら自分にあった科目を賢く選んで楽しみたいものです。というわけで、

今回はおもに学生の声を集めて、科目履修の役に立つ情報をお届けします。網羅的に集めることはできませんでしたが、それは今後の努力目標としておきましょう。

泣く子も笑う!!

志賀ゼミの正体

一等賞!

「志賀ゼミ」といえば、C科の中では「泣く子も笑う」「飛ぶ鳥も落ちる」精鋭集団としてみなに知られています。昨年一年の志賀ゼミが、五月の新生活歓迎行事において、一等賞の一番大きな菓子袋を、教員顔負けの強引さで勝ち取るという偉業を成し遂げたことは、みなさんの記憶にも新しい(?)かと思えます。

今回はこの場を借りて、志賀ゼミ(一年対象のゼミと

三、四年生対象のゼミ)紹介を行いたいと思います。

口頭発表+ディベート

一年のゼミは、これからの大学四年間を有意義に過ごしてもらうために、レポートの書き方、資料の調べ方、口頭発表のやりかたなど、必要最低限の技術を身に付けることをねらいとしています。

前期はまず自分の好きなテーマを決め、口頭発表を行い、そのテーマを発展させてレポートを書きます。

後期は効果的な発表や討論のしかたを学ぶために、ディベートを行っていただきます。ディベートは四つのチームに分かれ、みんな

で協力し合って準備をし、対戦によって勝敗を決めます。最初は討論に慣れておらず口ごもっている人も、回を重ねるごとにだんだん板についてきて、最後のディベート「小泉首相の靖国神社参拝は是非か」では、白熱した議論の応酬が



熱した議論の応酬が

見られました。

留学生も参加

今年は、中国から三人の留学生が加わったので、前期の終わりに「餃子パーティ」を行いました。餃子の作りかたをもつぱら指導してくださったのは天津師範大学からの招聘教員・田園先生です(助かりました!)。日本人の学生のほとんどは、中国式の水餃子を作るのも食べるのも初めてだったようで、なかなか好評でした。

日本と中国の文化

三、四年生のゼミでは、前期は中国の社会と文化について、または日中間の文化交流や摩擦問題について学び、討論するという形で進めています。来年度は、日本人の中国人観、または日本のメディアは中国人や中国文化をどのように描いてきたのか、という問題を取り上げてみたいと考えています。

フィールドワーク

後期は、「フィールドワークのスキルを学び、実践する」



ということで、自分自身の関心に沿ってテーマを決め、インタビュー調査によるライフヒストリー研究を行います。

韓国男性の徴兵制に対する意識」「JR社員の仕事観」「兼業農家の後継問題」「会社経営と地域社会―下館市の葬儀会社を事例として」「自営業者の仕事観」「鈴木邦男先生の教育観」「中国人留学生の日本人観」。中には合コン

でインタビュ相手を見つけきたつわものもいて、たのもし限りです。さて、志賀ゼミの今後の課題としては、①ゼミ旅行をする(誰かが仕切ってくれば可)、②ホームページを立ち上げる(実は教員のHPも

まだ)、③就職率を上げる、④出席率を上げる(飲み会を含む)、などなど前途多難ではありますが、われこそはと思われ方は、ぜひ志賀ゼミを志望して盛りたてていただきたい、と切に願うものであります。(志賀市子)

細谷瑞枝 基礎演習

外国人に日本を伝える

この授業では、現在の日本の問題を外国人の人に紹介するというコンセプトで各人がテーマを設定して、レポートを書き、発表をしていきます。

前期は毎回のように宿題があり、しかも自分のテーマにそつての課題なのでこっそり友達のを写すわけにもいかず、かなり大変。

その甲斐あって後期は教育問題から日中関係まで様々のテーマに関する発表を楽しめます。自分の発表の時の緊張感も後になればきつといい思い出!

学生感想を以下に紹介します。(細谷瑞枝)



とてもよい経験

自分で問題を選び、考えを誰かに伝えることはとてもよい経験になった。

る授業でよかった。

レジュメ

この授業を通してレジュメの作り方や発表の仕方を勉強したのはとても自分のためになったと思う。

自分の意見

授業が始まったころに比べたら少しは自分の意見を持つようになった。

発表の苦手な人には、いい

主題の頻度や量がちょうどよかった。発表の苦手な人にとっては少ない人数の前での発表なのでいいハビリにな

人の意見・自分の意見

普段、人の意見とか考えとか聞いたり、自分の考えに對しての意見を聞いたりする機会がないので、とても勉強になりました。宿題とか何気なく多くて大変だったけど、とても楽しい授業でした。





2月に再びカンボジアに行ってきました

文化交流学科 田中悠介

05年9月、日本語教育ボランティアに参加した田中君が、今年の2月にカンボジアを再訪しました。

がどう使われ、彼らが一体どんな生活を送っているのか、ということに興味を持ちカンボジアを訪れたのでした。

この「友の会」とは藤田先生が中心となり立ち上げたもので、名前の通り友好学園卒の学生をサポートしている団体です。友好学園のあるプレイベン州では農業が主な産業ですが、現金収入がほとんどありません。そのため彼らは学費を払うことが難しく、そのほとんどが大学に合格して

も、経済的な理由で通うことができないのです。学生である私にとって五万円という金額は決して安いものではないです。額を決して安いものではないですが、みんな多少ずつ出し合うことでどうにか一人の学生をサポートしています。そして何よりもこの企画ではサポートする側とされる側

今回の目的はズバリ、プノンペンに住む学生に会うこと。彼らは私が前回訪れた「カンボジア日本友好学園」の卒業生です。

私達は「カンボジア日本友好学園友の会」(以下「友の会」)を通して彼らに年間五万円の学費援助を行っています。今回一緒に行った二人の他に、学生一人、社会一人と私を合わせて五人のメンバーで一人の学生をサポートしています。学生・社会人・フリーターと立場は少しだけ違いますがみな20代前半、私がサポートの話しを持ちかけると快く引き受けてくれた人達です。

そしてそのうちの三人が今回、カンボジアでその五万円



が直接連絡を取ることがもろろん、実際に会って話すことも可能で、それによってお互いの関係を築き上げていくことも出来ます。これが私にとって一番の魅力でした。

サポートする側の人達は実に様々で、年輩の方から私の様な若年層まで男女を問わずこのサポートの話を聞いて集まった人達です。

今回行程を共にしたのは私と同じ学生が一人と、フリーターが一人。二人ともカンボジアは初めてなのでとにかく興奮していました。日本での私達の生活とカンボジアの人々の生活との多くの相違点に二人とも驚かされていた様です。途中、体調を崩したこともありましたが全員無事に帰ってくる事ができました。

私達がサポートしているのはミア・サミエットさん(25)。プノンペン国立大学で数学を勉強しています。彼の将来の夢は数学の教師になること、そして「友好学園で教えてくれたから。」と言っていました。

実際に会うとなると細かい時間と場所を指定して、彼にそこに来てもらうことが必要でした。連絡の手違いで一度すれ違ってしまふなどアクシデントもありましたが、それでもどうにか彼に会うことが出来ました。

彼は25歳と私よりも少し年上、実際に会うまではどう接したら良いのだろうと多少の不安はありましたが、会ってみると見るからに純朴そうなお優しい青年でした。街を歩けば足場の悪い道では私達を先導してくれたり、歩道の内側を歩くよう促してくれたり、まるで家族の様に接してくれました。

言いたいことはたくさんあるはずなのに何語で喋って良いものかとお互いに困惑してしまいましたが、どうにか私達のつたない英語で会話することが出来ました。(彼は日本語を勉強したことはあるのですが、得意という感じではないので英語を使いました。)

そして仲の良い他の学生達も交えて夕食をともにし(もちろん会計はこちら持ちですが)、私達の泊まっているホテルで遅くまでお互いの将来の話をしたりして四日間を過ごしました。その間に彼の大学と下宿先に行くことができ

ました。彼の下宿先は紡績工場の社宅の中にあつて、その長屋風の建物の一室を学生四人で借りているそうです。部屋は三畳程度、電気は無く、トイレと水道は共同で使っている様でした。

彼らと食事する時はもちろん、その他様々な場面で私は彼らに「クメール語で何て言うの?」という質問を浴びせ続け、その覚えたてのクメール語を使って地元の人達に話しかけることが何よりも面白く感じました。それは彼らにとっても同じことが言える様で、会った当初は挨拶程度しか出来なかつたサミエットさんも、四日間ですぐに日本語を使う様になりました。こうしてお互いの言語を学び合

い、練習することができたことがとても印象に残っています。学費をサポートすることで知り合った関係ですが、やはり年齢が近いということもあり友人もしくは兄弟のように接することが出来ました。四日間という時間はあまりにも短く感じられ、別れがたい気持ちでいっぱいでしたが、「きつとまた来ます。」と約束して手を振りました。

奨学生たちをプノンペンに訪ねた田中君(前右)とサポーター仲間(左の2人)。中央が友好学園総責任者のコン・ボーン氏。前列右から3人目がサミエット君。



奨学生たちをプノンペンに訪ねた田中君(前右)とサポーター仲間(左の2人)。中央が友好学園総責任者のコン・ボーン氏。前列右から3人目がサミエット君。



05年度も アジアンバザールで アジアアンバザールで 雰囲気 アジアンな

仏教精密画がブレイク!

文化交流学科 佐々木美佳

去年の十一月二日と三日に行われた学園祭でアジアンバザールを開催した。

二回目となった今回のアジアンバザールに参加したのは藤田先生、柏原先生、岩崎先生と学生十一人。今回、参加した学生は一回目に参加した学生数名と、去年の夏にカンボジアへ行って日本語を教えてきたメンバーの一部。

タイ、ミャンマー、カンボジア、ベトナムで先生や学生たちが直接仕入れてきたものと、タイでボランティアをしている福田さん(茨キリの卒業生)から送ってもらった品々の展示販売、ベトナム



コーヒーや柚子茶などのアジアのお茶が楽しめる喫茶店、日本語教育教育ボランティアやクメール伝統織物研究所(IKTT)、タイのボランティア団体のパネル展示、それぞれ担当を決めて準備した。

ショップはポーチやお香セットなど、数百円の雑貨からカンボジアの伝統織物などエスニックなアジア雑貨を数百点そろえた。人気があったのはタイシルク、お香セット、ポーチなど。

サイという蹴って遊ぶおもちゃも人気があった。これはカンボジアでもポピュラーな遊びで、実演してみたが、難しくして連続して蹴ることができなかった。

また、ミャンマーの仏教精密画とベトナムで仕入れてきた絵もなかなか人気があった。なかなか見られない商品が多いので、見ているだけでも楽しんでもらえたと思う。また、店内は現地で購入した民



族楽器のCDをかけ、お香をたいいてアジアアンバザールを演出した。

一回目同様、今回もIKTTの商品を展示販売させてもらった。IKTTはカンボジアで一度は消えかけた伝統織物を森本喜久男さんが復興させた団体である。

喫茶店の一番人気はベトナムコーヒー。粉とコーヒーを入れる器具は現地で購入したものを使用。ベトナムコーヒーは淹れるのが難しく、試行錯誤を繰り返して、本場の味に近づけて提供することができた。ベトナムコーヒーはコン

ダンスミルクをいれて飲むので、それが珍しく、女性に大変好評だった。その甲斐あってか、常に満席で相席をお願いすることもあった。また、一回目の反省点を生かし、今回は子供

向けにカルピスとオレンジジュースを用意した。ピラ配りの甲斐もあり、二日間を通して、子供から年配の方まで老若男女を問わず、大勢の人でにぎわい、ショップも喫茶店も予定していた休憩時間が取れないほど忙しかった。おかげで売れ行きも良かった。



カンボジア 日本友好学園 からの便り

友好学園の総責任者コン・ボーン氏より、メールで連絡がありました。

去年の九月に日本語教育ボランティアということで本学の学生を主体に九名で滞在させていただいたおりに、学園の教育向上のためにということで、一人百ドル計千ドルの寄付をさせていただきました。その一部を教育熱心な教員に賞を出すことにしたとのことでした。

高校教員三名、中学教員三名の計六名を「模範教員」として全校集会で表彰し、学校全体のレベルアップをはかりたいとのことでした。

「おかげで、今年の中学から高校への進学テストの成績は去年よりずっと向上した」と感謝の言葉を頂きました。

アジアンボランティア・サポート基金
今年も第3期、第4期として取り進む予定です。
資金援助はともかく、もつとボランティア活動に関わってほしいということから、第2期からは「お勧めボランティア・メニュー」として、柏原教授が詳しいタイ・ミャンマーを中心にいくつかのメニューを推薦したりしています。しつこく勧めるのでぜひ検討してください。

日本語教育ボランティア

カンボジア日本友好学園(中学高校)で日本語教育のボランティア活動をします。9月の前半の2週間程度。プノンペン集合、解散。航空券の手配などサポートはしますが最終的には自分の責任で行います。カンボジアに行くのだからアンコールワットに行かない手はないと思う人が多いので、去年はほとんどシエムリアップ集合となりました。クメール伝統織物研究所も集団で訪問しました。10名程度のグループで実施します。費用は10万程度ですが、ボランティア・サポート基金からの援助、アジアンバザールの買出し旅費補助、の二つの可能性があります。

学園祭でアジアンバザール

11月の学園祭で04年に始まりました。今年で3回目になります。アジアのエスニックグッズを自分たちで仕入れて販売し、同時に各地の様子を紙の掲示物やビデオ、写真などの画像をプロジェクトで投影して展示します。アジアン喫茶ではベトナム・コーヒーが定番になっています。05年には柏原教授がミャンマーで大量に仕入れてきた仏教精密画が予想外に売れて大ブレイクしました。

IC・ANNではいろいろなアイデアを出し合って、楽しくタメになる活動を行っていきます。ぜひ参加してください。

恒例の留学生歓迎パーティー
詳細は未定ですが、四月の末、
五時過ぎからです。掲示にご注意
ください。(担当・樂谷)